

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービス ファーストフレンド高須			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 7日		～	2024年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 7日		～	2024年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	管理者・児発管の考えている障害児通所支援についての方向性が一貫しており、職員にも周知出来ている。 全体の職員は20歳代から70歳代までと幅広い年齢層で構成されている。そのため、若者の考え方とベテランの考え方が上手く融合することで子どもたちの支援にも、一貫している中でそれぞれの役割をはたしバランスの良い指導・支援が行われている。	本年度から全員小学生となり、1年生から6年生までの全ての学年の児童が利用している。知的障害・発達障害の度合いは当然それぞれ違う。その中で、ソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。能力の違いがあっても、少しでも全員が参加出来るよう工夫し行っている。社会性が劣っている子どもが多い中、少しずつ効果が表れている。	知的に高い子どもたち、または、行動障害がある子どもたちが他の子どもや職員に対して横着で荒っぽい言動をとることがある。それらを改善していくための指導・支援について日々情報交換しながら取り組んでいる。そういった子どもに対しては、改善するという目標に向かって、それぞれの職員が持っている特性を生かし一層の改善に努めたい。

2	幅広い年齢層のため、職員間の意識のズレや考え方の違いが生じることもあるが、職員会議の中で管理者を中心とし職員が心を開いて話す場を設け、その都度解決し和気あいあいとした雰囲気を保っている。	学校が早帰りの時、土曜日、長期休暇期間については、必ず外出して体験活動に取り組んでいる。各職員の担当日を決めて、その職員を中心に活動内容を決定している。ある程度パターン化されていたものが、最近では地域の行事への参加や公共交通機関の利用を通して、子どもたちの社会参加や公共マナーの向上を図っている。	外出する際に、よりバリエーションに富んだ質の高い、楽しみ方が体験できる施設を利用する場合、それなりの利用料金がかかるので、今後、そのような取り組みをする際は保護者から料金を徴収して幅広い体験が出来るようにしていくことも考えている。
3		北九州市の「おもちゃライブラリー」から定期的に知育玩具を借りてきて室内に置いている。職員が促して取り組む事もあれば、自主的に取り組む子どももいる。2週間ごとに変わるので、子どもたちも飽きずに喜んで取り組んだいる。近辺の図書館から本を借りてきて壁や棚に立てかけることで興味を引き自由に読んだり、帰る前には、心を落ち着けるという意味で全員本読みに取り組んでいる。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本事業所の建物は元々、小さなレストランだった。子どもたちの体は年々成長しており、職員の体重を超える子どもも数名いる。動きも伴う活動については、活動場所が狭く感じる。事故や怪我がないように工夫しながら取り組んでいる。	子どもたちは、知育玩具で遊んだり、絵を描いたり、工作をしたり、タブレットで調べものをしたり等、多様な活動をしている。ただ、事業所滞在時間が長くなると、時間を持て余す傾向があるために、危険予知能力や環境把握能力、自己抑制能力が落ちてくる。そのような時にトラブルが起きやすくなる。	日頃から「思いやり」の精神を子どもたちに語り続けること。そして、自分自身の好感度を上げていくための言動をとる事が将来に向けて大切だということを認識できるようにしていく。話だけで理解できない子どもについては、視覚的な支援やジェスチャー等で伝える。
2			

3			
---	--	--	--